

施設栽培におけるピワ果実内部腐敗の病原菌の感染時期と発病の品種間差異						
<p>[要約] ピワ果実内部腐敗を引き起こす <i>Alternaria</i> 属菌と <i>Colletotrichum</i> 属菌は、開花期から感染する。また、「長崎早生」は「茂木」や「福原早生」より発病しやすい。</p>						
長崎県果樹試験場・病害虫科	専 門	作物病害	対 象	果 樹 類	分 類	指 導
<p>平成 8年度長崎県果樹試験場業務報告 平成 8年度九州病害虫研究会報（投稿中）</p>						

[背景・ねらい]

施設栽培の増加に伴い、果実腐敗の発生が問題となっているが、現場では「福原早生」で果実内部から腐敗するものが多い。そこで果実内部腐敗を引き起こす *Alternaria* 属菌と *Colletotrichum* 属菌の感染時期を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

- ① *Alternaria* 属菌及び *Colletotrichum* 属菌とも満開期に接種すると、結実率は低下しないものの収穫時に腐敗果が発生する。
- ② 落弁期の接種では結実率が大きく低下し、特に「長崎早生」が著しい。
- ③ 供試した 3品種の中では、「長崎早生」が最も発病しやすい。
- ④ この 2種類の病原菌は満開期から感染するが、「福原早生」と「茂木」は「長崎早生」ほど結実が阻害されないため、果実内部に潜伏し、果実が成熟するとともに病原菌が活性化して腐敗を引き起こす。

[成果の活用面・留意点]

- ① 被覆する時期を早め、花が雨にさらされないようにする。
- ② 開花期に灰色かび病とともに同時防除できる薬剤を散布する。

[具体的データ]

表1 接種時期別による各品種の腐敗果の発生

供試菌類	接種時期	品 種	着果 数 (果)	不結 実数 (果)	結実率 (%)	腐敗果数(果)		腐敗果率(%)	
						収穫時	8日後	収穫時	8日後
<i>Alternaria</i> 属菌									
	満開期 ^z	茂 木	60	0	100	0	10	0	16.7
		長崎早生	50	6	88.0	6	26	13.6	59.1
		福原早生	57	0	100	2	12	3.5	21.1
	落弁期 ^y	茂 木	52	7	86.5	0	8	0	17.8
		長崎早生 ^x	51	28	45.1	0	4	0	17.4
		長崎早生	49	26	46.9	0	0	0	0
		福原早生	53	4	92.5	4	12	8.2	24.5
<i>Colletotrichum</i> 属菌									
	満開期 ^z	茂 木	53	3	94.3	0	16	0	32.0
		長崎早生	47	14	70.2	12	24	36.4	72.7
		福原早生	57	7	87.7	1	16	2.0	32.0
	落弁期 ^y	茂 木	51	4	92.2	5	12	10.6	25.5
		長崎早生 ^x	58	24	58.6	0	4	0	11.8
		長崎早生	53	20	62.3	0	7	0	21.2
		福原早生	55	20	63.6	1	1	2.9	2.9
無 接 種									
		茂 木	57	4	93.0	1	0	1.9	0
		長崎早生	51	4	92.2	1	0	2.1	0
		福原早生	58	3	94.8	0	6	0	10.9

^z 1996年 1月11日接種

^y 1996年 2月 9日接種 (ただし, ^x のみ 1月11日接種)

[その他]

研究課題名：施設病害虫の効率的防除法の確立

予算区分：県単

研究期間：平成 8年度 (平成 6～ 8年)

研究担当者：古賀敬一、西野敏勝

既発表論文等：平成8年度 長崎県果樹試験場業務報告

平成 8年度九州病害虫研究会報 (投稿中)